

まほろば市民大学 教養講座

「今さら人に聞けない〇〇な話～太宰府うんちく～」
一般受講生募集

まほろば市民大学では、各方面から講師を招き「教養講座」を開講しています。通常は受講生のみが対象ですが、本年度は一般の受講生を募集します。

今回のテーマは「雑学」です。「ポチ袋」の意味は？太宰府の「梅ヶ枝餅」を、「か」や「が」ではなく「ヶ」って書くのはなぜ？知っていそうで知らない、太宰府で暮らしていても知らないうんちくを楽しく学びましょう。

- 開催日時 10月12日(休)午前10時30分～正午
- 開催場所 プラム・カルコア太宰府(中央公民館) 4階多目的ホール
- 講師 毛利清彦さん(武雄市塩見神社宮司/元太宰府天満宮神職)
- 受講料 300円
- 定員 40人
- 申込期間 9月1日(金)午後1時から定員になり次第締切
- 申込方法 ホームページの申込フォーム、
電話または窓口で氏名・連絡先を伝えてください。



あまのとおかげ
天野遠景と大宰府

元暦2(1185)年、源頼朝は壇ノ浦の戦いにて平氏を滅ぼし、九州の統治に乗り出しました。九州は長らく平氏の重要な勢力基盤であり、滅亡後は頼朝と対立した弟の義経が、後白河法皇から九カ国の地頭に任ぜられたようです。頼朝率いる鎌倉幕府にとって、早急に勢力を確立する必要がありました。

そこで、頼朝の側近天野遠景が同年の末頃に九州に派遣されました。この天野遠景については以前に一度、「太宰府人物志 資料室だより」(広報だより平成25年2月号)で詳しく紹介済みですが、あらためて多少の付け加えをして取り上げたいと思います。



～公文書館だより⑩～

果たすために、遠景は既存の行政機関である大宰府を利用しています。ご存じの通り大宰府は、九州全域の統括と海外との交渉のために朝廷が設置した地方官庁です。関東からやって来た遠景は、この大宰府を掌握することによって現地の行政機能を手に入れたと考えられています。では具体的にどのようなようにして掌握していたのか、研究者の間でも意見が分かるところです。

ここで遠景が出した文書を見てみると、頼朝が出した文書を受けて、その内容を遠景が九州で実行する際に出したものが数点伝えられています。これは遠景が単独ではなく、府官(大宰府の役人)2人と連名で出している点が注目されます。つまり、遠景は独力ではなく実務能力のある府官たちの協力を得ることによって、頼朝からの命令を実行できていたと言えるでしょう。このような方法は、続いて来住する武藤氏(少弐氏)に影響を与えていくことになりました。

太宰府市公文書館 大塚 俊司